

後の人のことを考える

昔、勤務していた学校で、校長先生が「あとみよそわか」という言葉を全校朝会で紹介してくれました。「毎日の掃除の後、反省タイムがあるでしょう。その時にもう一度、自分たちの掃除した後を見てみましょう。何かが見つかります。さて何が見つかると思いますか？」数名の子どもたちが「まだゴミが残っているかもしれない」とか「片付けができているかの確かめ」と答えました。校長先生は「すごいね。よく考えられています。最後まで点検して責任をもつことを『あとみよそわか』といいますよ。あとをみればそれとわかる、ということでしょうか」と褒めました。さらに「きれいに整えられた場所には、宝物が見つかります。何でしょう。それは、『素敵な場所だな』と後の人が感動する宝です」とおっしゃいました。子どもたちに「掃除し終わった後で、今日は、宝物が作れたかどうか、このおまじないを唱えて、確かめましょう」と呼びかけて締めくくりました。

先日久しぶりに「あとみよそわか」という言葉を聞いて、AIで検索すると「そわか」という言葉は仏教の呪文の締めくくりに用いられ、「成就あれ」「幸あれ」という成就・功德を意味するということを知りました。



私たちの今の暮らしは一朝一夕に出来上がったものではありません。例えば、現代の生活に欠かせない電気、水道、ガス、通信、交通、物流。安全な住居で、冬は暖かく夏は涼しく過ごせる。テレビやインターネットから欲しい情報を得られる。近くのスーパーで食材を買う、または外食することもできる。移動には、自転車や車や電車を使って目的地まで行ける。それらのことは、全て先人たちの発明、発見、たゆみない努力のおかげです。形あるものだけでなく、遠い昔から積み上げてきた学問、文化、道徳がもとになり、平和な世界に向けての取組、人権尊重の社会の実現が成されようとしています。先人たちが、努力して作り上げてくれたことの続きに今の豊かな暮らしがあることを忘れてはなりません。

このように考えると、私たちもまた、未来を生きる人たちのことを考えた生活、未来の人が素敵な世界だと思ってくれる宝物を残す必要があるのではないのでしょうか。いま世界には多くの課題があります。とりわけ環境に関する課題は、年々深刻化しています。私たちが、「今さえよければ」「自分さえよければ」という考えで、資源やエネルギーを消費し、大量のごみを好きなように捨てていけば、きっと近い将来、取り返しのつかないことになってしまうでしょう。

私は、食品ロスを無くすことを心がけています。まずは買いすぎない。調理方法を工夫して使い切る。たくさんのいただき物は近所と分け合う。期限内に消費しきれないものは、フードボックスに出して回収してもらう。ごみの分別を正確に行う。これらを始めて、冷蔵庫や食品庫にゆとりができて掃除もしやすく、きれいになりました。ですから、食器にも若干気を配って楽しく食べています。

普段、何気なく行っている行為の視点を少し変えて、自分のしたことの後を振り返ってみる、後の人にとっていいことがあるように行動する、そんなことを少しずつ実行していけたらと思います。それが今の自分にとっても未来の社会にとっても幸福なことだと思います。

